



霞ヶ浦 NEWS

VOL.4 No.8

8月号 (通巻 33 号)

(社)霞ヶ浦市民協会 〒300 0033 茨城県土浦市川口 2-13-6

TEL 0298-21-0552・21-0660 FAX 0298-21-6209

郵便振替口座 00120-9-726025 / 名義:(社)霞ヶ浦市民協会



新川花壇式浄化水路での花植え(土浦市)

新川プロジェクトその後

池田 憲彦

6月25日夜、亀城プラザの一室では、新川の水路式花壇にどのような植物を植えたらいかが“白熱した”論議が行われていた。3月に行った第1回目の花壇作りは、水の浄化という点では、一定の成果が得られたが、その後の管理面では、幾つかの反省点が残った。特に花を腐らせない流量の調整、水がスムーズに流れる植え方、植える植物の種類について改善が必要ということになった。植え方については、島根大学の相崎先生のアドバイスで、植え土のゼオライトの

片側を掘り、うねを作って水の流れをよくし、植える植物は、地元区長さん達の意見で、マリーゴールドや日々草などの花とミニトマトやミツバが選ばれた。

当日7月4日は、朝からよく晴れ上がり絶好の“労働日和”となり、恒例の新川清掃の終了後、花壇作りということになった。11時ごろには、地元の虫掛、田中、立田の人達も集まり、まず花壇の兩岸の草刈り。特に、2m近くも伸びて花壇の視界を遮っている草を慣れない手つきで電動草刈機を操作しながら、会員が交替で100m近く切り払った。

その後地元の人達の指導の下、

マリーゴールド、日々草、ミント、枝豆、ミツバ、ミニトマトの順にうねを作りながら、丁寧に植えていった。今度は水の流れもスムーズにいきそうである。“花植え”の後、花壇の向かい側にある東京スコールさんの駐車場を借りて、豚汁、すしなどで“交流会”を行った。前回より人数は少なかったが、和やかな交流会となった。ここで思わぬハプニング。東京スコールさんが、地元の方に草刈りをしてもらったお礼にとジュースを差し入れてくれた。このように、一昨年から始まった新川での活動は、地元の人達を巻き込みながら、少しずつ成果をあげている。

泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル



「海の日」の熱い一日

副実行委員長 宮本 泉
去る7月20日「海の日」、当会主催「泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル」が土浦バイオパーク隣の会場で開催され、大勢の人で賑わいました。今回で4回目の開催となれば、これを楽しみに待っている人も多く、夏休み恒例のイベントとして定着した感があります。

お馴染みの「Eボート・ヨットの体験試乗」「アシからの紙すき」「フェイスペインティング・パルーンアート」、今回新たに登場の浮かぶ桟橋上での熱戦「水上フラッグバトル」、対岸まで船で運ぶ「霞ヶ浦の船頭さん」、渡った対岸での「親子バーベキュー」、懐かしい「昔の遊び体験、剣玉大会」、釣の腕を競う「キャスティングゲーム」「ブルーギル釣大会」「フリースロー」、国際色豊かな「国際交流プラザ」、「水質調査・世界湖沼会議パネル展示」「水質浄化キャンペーン」、ステージではロック、フュージョン、ジャズ中心の「霞ヶ浦音楽祭」、人形劇「カッパのパンツ」などなど盛

り沢山。会場には焼きトウモロコシの香ばしい匂いが漂い、とん汁・レンコンめん・ブラックバス、ペヘレイ、ブルーギルの試食・アメリカンドッグ・氷水・冷たい飲み物など、参加者は食の方でも満足されたことと思います。

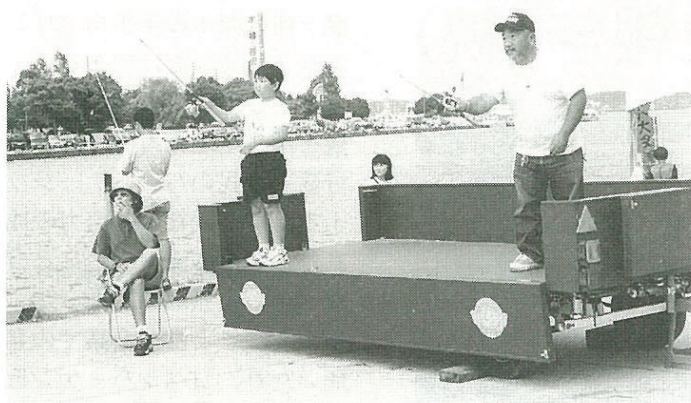
また、同時開催の「霞ヶ浦夏休み教室（建設省霞ヶ浦工事事務所主催）」は魚の解剖、顕微鏡でのプランクトン観察を行い、土浦バイオ

パーク内でのドジョウつかみには歓声があがりました。「霞ヶ浦夏休み親子研修（土浦市主催）」は船による親子参加の湖上観察会を行い、楽しみながらの霞ヶ浦研修でした。

このようなイベントを盛り上げる力となっているのは、市民、行政、企業などの連携であり、それは霞ヶ浦をなんとかよみがえらせようとする熱意であると思います。今後、さらにこの活動の輪が霞ヶ浦周辺地にも広がっていくことを期待しています。



アッ！ 危い（フラッグバトル）



キャスティングゲームに子ども達も挑戦



どじょうつかまえたよ！(夏休み教室)



魚の解剖 (夏休み教室)



大人も童心にかえって (水ヨーヨー祭り)



楽しそうなEポート



うまくできるかな…… (アシの紙すき)



ロックが湖面を流れる (音楽祭)



いい匂いだなあ (焼きとうもろこし)

第8回 世界湖沼会議報告(続)



デンマークの流域管理に学ぶ

沼沢 篤

デンマークの人口は約500万人、国土面積は日本の九州と四国を合わせたくらい。山地がなく、丘陵地と低地のなだらかな起伏が続く地形である。首都コペンハーゲン以外は人口密度は高くない。首都から10km離れれば、緑の沃野が続く。樹林の中に住宅が見えかくれる。ゆったりした傾斜地には、麦類、牧草、菜の花などが植え付けられ、広い放牧地では、馬、牛、羊などがのんびり草を食べている。低地は、柳や葦が茂り、初夏にはナイチンゲールが渡ってきて美しい声を聞かせてくれるそうだ。

デンマークには中小の湖沼が多く、30年前は富栄養化が大きな問題になったという。しかし、デンマーク王立薬科大学のS.E.ヨルゲンセン教授らが、面源負荷(工場排水などの点源負荷に対して、農地や市街地から流出する汚濁源のこと)削減のための流域管理モデルを策定して、行政や住民の理解を得て実行し、改善が進んだ。

その第一は、土壌侵食にともなう肥料分の流出の抑制である。デンマークの農地は、家畜糞尿の農地還元を長年続けた結果、肥沃な

黒土になっているが、これは降雨によって養分が流出し、河川や湖沼が富栄養化しやすい。それを防ぐには、平地林、穀類、牧草などによって植被率を上げ、裸地、荒地をできるだけ少なくすることである。ヨルゲンセン教授は「デンマークの国土の植被率は70%です」と胸を張って説明していた。これは山地がない国としては驚異的な数字である。霞ヶ浦流域の森林率は、わずか22%にすぎない。

第二は、ウェットランド(湿地)の活用である。干拓や埋め立てを制限して、なるべく自然のままに、柳や葦その他の湿地性植物が繁茂する状態を残している。養分を含む水が、こうした湿地をゆっくり流れることによって浄化され、本湖には澄んだ水が流入する仕組みである。霞ヶ浦では、すでに河川、河口の湿地は干拓、埋め立てによって失われてしまったところが多い。また低湿地は、水田や蓮田として、生産の場となっている。しかし、休耕田の利用や遊水地化など湿地を活用した浄化法はもっと工夫されてよいだろう。

第三は、下水処理場における徹底した高度処理(薬品処理をふくむ)である。デンマークでは排水の処理水の全リン濃度の基準を厳しくしている。湖沼、河川などに

放流する場合の処理水の全リン濃度は、0.2mg/l以下である。これは霞ヶ浦の湖水の年平均全リン濃度より2倍高いだけである。

前述した、絵のように美しい景観を示す土地利用は、実は研究者、行政、市民のパートナーシップによる流域市民社会の努力の成果であり、湖沼の流域管理にとって理想に近い形態なのであった。以上のようなことは、会議での発表を聞いたり、コペンハーゲン近郊の湖沼めぐりの公式エクスカージョンに参加して実地に視察して、ようやく理解したことである。今回の世界湖沼会議への参加の目的の一つは、デンマークの成功した流域管理に学ぶことにあったが、なんとか達成できたようだ。

霞ヶ浦の価値を再認識

萩原富司

私は、今会議においても、'95年の霞ヶ浦の時と同様、霞ヶ浦におけるタナゴの減少とその原因について(今回は開発の影響という視点から)発表した。前回はポスターセッションで発表して、外国人にあまり興味を持ってもらえなかった。今回は私の英語の実力からは大胆と言える口頭発表とした。

私には、沿岸生態系を発表する会場があてがわれた。ヨシなどの水生植物の分布に及ぼす環境要因とか、レンギョウの生態に及ぼすサケ科の魚の移入など、同業者が集まる部屋ということで、興味を持ってもらえることを期待した。また、ヨーロッパには、ヨーロッパタナゴというバラタナゴに近縁なタナゴもいる。開発されたヨーロッパにおいて、本種がどのような状況に置かれているか、という情報も得られるいい機会と期待していた。ところが、あまり関心を持ってもらえなかった。もちろん私のプレゼンテーションの出来が悪いのは承知しているが、それに

しても反応がなかった。同様に滋賀県から来られたNGOの方が、ホタルの生息地の保護について訴えておられたが、これも関心はいまいちだったように思われる。

デンマークの人は、水道にも灌漑にもほとんど使われていない湖の水質回復のために、3次処理をしたり、流入河川の手前に大きなラグーンを造成している。そこに住んでいる魚は、コイとローチ(小型のワタカ類)とパイクくらいである。今ではパイクが減って釣り人もあまり近付かない。もちろん寒冷地なので、あまり生物の多様性は高くない。利用もしていない湖をなぜそんなに保全対策をするかと聞けば、そこに自然があるか

だましである。地理的な障害が幸いして、釧路湿原や沖縄のヤンバルなど手つかずの質の高い自然がいっぱいあるように思われる。私たちは、環境の変化に非常にデリケートなタナゴやホタルの生息する湖を持っている。私は、デンマークの貧しい生物相の湖を見て、霞ヶ浦の価値を再認識するとともに、環境保全活動に対するモチベーションが高まった。

なお、デンマークの50クローネ紙幣にフナが印刷してあった(写真)。ほかのポスターセッションを見ても、どうやらヨーロッパにもフナがいるようだ。なぜ紙幣にこれが印刷されているのかは聞き逃した。



デンマーク紙幣 50 クローネ

らだという。ある高校をリタイアしたデンマーク自然保護協会員は、国内のカエルの保護活動をしている。彼もまた自発的に保護活動を始めた方なので熱意は伝わってくるが、われわれ日本人には、関心はいまいちである。

デンマークは人間の開発を拒むような急峻な山、大きな川などがなく、どこでも利用可能なように思える。多くは有史以来一度は利用された土地なので、在来の自然が残っていないのではないかと。そこが日本人とデンマーク人(またはヨーロッパ人)の自然観の違いで、わずかでも残っている自然は大切にしようという動機になるのだと思う。

このように考えると、日本はま

霞ヶ浦における3つのタイプの市民活動について発表

山根 幸美

会議2日目のNGO分科会は、開会式が行われた大ホールであった。会場には9時30分到着、ポスターを見るのは後回しにしてホールに直行し、基調講演「持続的な水資源管理のための国際ネットワーク The Global Water Partnership」に耳を傾ける、少しでも英語に耳なれたい思いがする。

10時30分から2時間のNGO分科会に入る。2本のキイノートに続いて、5人の発表という構成とわかる。キイノート1「21世紀の水、暮らし、環境の展望」では、政策

決定者の認識不足が問われていた。キイノート2は「奪われし未来」の著者の1人、ダマノスキーさんの話、私たちに関心の高い環境ホルモンについて歯切れのよい話ぶりを展開し、化学産業の転換と化学汚染からの解放を訴えた。

次が山根、桜井「霞ヶ浦における3つのタイプの市民運動」の発表である。霞ヶ浦をめぐる開発と浄化策をまとめた上で、「(社)霞ヶ浦市民協会」「霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議」「宍塚の自然と歴史の会」の活動と特徴を紹介、これらの活動を行政が公平に評価することの重要性を強調した。100人ほどの聴衆の中で、知事以下参加団の方々が聞いて下さったのだが、私はシートから目を離せず、15分の発表を終えてほっとした。

続いて、デンマークからのレクリエーション活動の管理、洗濯の仕方のキャンペーン、デンマーク自然保護協会の活動の3報告があり、最後に、国際NGOレイクネットのリスさんが活動報告をした。キイノートの他は、質疑なし、立て続けの発表であった。昼休みに滋賀の参加団の方の呼びかけで、デンマーク自然保護協会の活動報告について再度詳しく聞くチャンスがあった。大きな権限を持つNGO活動の仕組みが伝えられたので、別の機会に報告したい。

遅めの昼食とポスター見学の間、滋賀の方々や環境庁の方と話を交わした。午後は、環境教育、モニタリングの分科会をはしごし、沼沢さんの発表質疑に触れ、また霞ヶ浦での湖沼会議から顔なじみのジンバブエのマガッツア氏と、恐竜は死滅したが恐竜もどきの人間どもは暗躍していると大笑いして過ごした。夕刻から滋賀グループ主催のワークショップを覗いて、タクシーで知事主催パーティに合流した。忙しい一日であった。

帰国後、レイクネットからメールが届くようになった。

垣間見た北欧の水事情

中江元子

＜飲料水について＞

世界湖沼会議出発前に渡された旅のしおりに、訪問先のコペンハーゲンとストックホルムについては「水道水は飲めますがミネラルウォーターをおすすめします」とあり、スウェーデンのベルゲンは「水道水は飲めます」であった。この違いは、味からは判別できなかった。いずれも自然の味で、適温で飲めたせいもあっておいしかった。それでもミネラルウォーターが売られているのが不思議に感じられた。ストックホルムの水道局を見学した時、メーラレン湖のきれいな水を源水とする水道水

晴天でも干し場をみかけなかったわけが理解できた。ただ1度、ベルゲンで一戸建の庭に干してあるのを見て初めて生活臭を感じた。

＜トイレについて＞

下水道は完備しているようだった。トイレは水圧が高く、便座も高い。平均身長180cmの国民だからもっともだが、日本人男性は使用に一工夫を要したとか。トイレトーパーはベルゲンを除いて日本のように真っ白でないのが印象的だった。インテリアが凝っていてトイレにまで芸術品まがいの水栓や照明がつけられていた。

保温便座を見かけなかったのは室内暖房が行き届いているためだろう。ウォッシュレットもお目にかからなかった。

ベルゲンからベルゲン鉄道で海拔866mのミュルダール駅へ。そこでフロム鉄道に乗り換え船着場のあるフロムに向かう。フロム駅は海拔2mで鉄道の全長20kmの区間で864mを下り、1mに対する高低差は18cmに相当するという世界一勾配のきつい鉄道である。山頂からの雪解水が流れ落ちるのがあちらこちらに見られ、スケールの大きな自然の景観に早くも圧倒されつつフロム駅に着く。ここから船に乗り、世界最長のソグネフィヨルドの傍系で最も深く切れ込んでいるアウランドフィヨルドを、逆V字型にグドヴァンゲン迄約2時間の行程であった。海面からいきなり高さ1000mもの絶壁が聳え立ち、無数の滝が流れ落ち、或いは舞い上がっている。かと思うと船の下は水深1500mにもなる所があったりする。このような所にも、かつて人が住んでいたという家が見えたり、人口150人という村があり、厳しい自然条件の下でも人の生活が成り立つことに感じ入った。自然の恵みを活かし、その自浄力とのバランスのとれた暮らしなのであろう。まさに、人が自然の一部となっているような暮らし方を思うと、私達はとても不自然な生き方をしているのではないだろうかという気がした。



これから会場へ（ホテル玄関前で）

の試飲設備があったが、ミネラルウォーターと同様に、「ガス入り」と「ノン・ガス」の2種類が用意されていた。味は申し分なかった。家庭用浄水器は市販されているが普及率はとても低いよし。

水道水で指先が荒れる（パンストがひっかかる状態）のは初めての体験だった。硬水のせいだたのか帰国するとすぐ治ってしまった。

＜洗濯について＞

洗濯機の水温が80℃までになるとのこと。乾燥機も普及しているようだが、物干しは人目につくところは禁止で地下室に干すよし。

フィヨルド探訪

桜井 公子

湖沼会議参加の最後の日程は、ノルウェーのソグネフィヨルド視察であった。世界的に知られる自然環境保全状況と、環境問題への取り組み状況を見るという目的である。フィヨルドは氷河の侵蝕活動が活発に行われた、寒冷な高緯度地域の山地に典型的に見られ、かつて氷河が移動していった谷間に外海の水が入り込んでできた地形である。

水への思いを深めて

高木純子

NGOポスターセッションは、前日開会式を行ったファルコナセンターのファルコナーホールで開催された。このホールでは、参加者に昼食や飲み物を提供していたので、展示を見る人が多く、私達のポスター「行政、市民の連携による霞ヶ浦の環境教育の実践例」も多くの人から質問を受け、子供からの環境教育については、たいへんすばらしいなど、熱心に話を聞き、多めに用意したつमोरの資

料が足りないほどだった。霞ヶ浦へ関心を持つきっかけにと、共同発表者の中江さんのお母さんに、アシから作った和紙に花を描いていただき、何枚か展示したのが好評で、ぜひ売ってほしいなど大変興味を持たれた。このようなちょっとしたきっかけから、話の糸がほぐれてくるので、絵を展示してよかったと思った。

茨城での世界湖沼会議でスウェーデンのストックホルム市長マッツ・フルト氏とストックホルム水財団事務局長ボー・クランツ氏が水源であるメーラレン湖の浄化について発表した内容に関心があったので、ストックホルム水道局を訪問し懇談を行った。ストックホルム市の水に関する一貫した考え方の基本は、自然による水の循環ということで、「人間は水の循環に影響を与えることはできず、水の循環に適応しなければならない」ということである。

同水道局は、メーラレン湖の水を約100万人に供給している。メーラレン湖も以前は下水や廃水などが流れこみ汚れていたが、70年代に入って湖を保護する組織団体ができ、メーラレン湖を飲料水に使用している地域、使用してはいないが近辺の地域が連合体を作り、浄化に取り組んだ。排水の法令規定は、農地の湖岸からの距離を制限して肥料の湖への流入を防いだり、廃水は一切湖に流さない（廃水は処理してバルト海に流す）、有害物質を運搬する船の底は二重底にする、工場などの廃水も検査して悪ければ罰金、改善しなければ実刑もあるなど大変厳しく規制した。また一般家庭へのキャンペーンには、洗剤は小量で害のないものをなど、洗剤の使用についても注意し、環境教育については6才位からリサイクル教育を行うなど、循環型ライフスタイルへの啓蒙に努めている。また、毎年ウオーターフェスティバルをストックホルム市で開催して湖への関心を喚起し、啓蒙運動を行っている。このような努力で、メーラ



山頂から滝が幾筋も（ゲイランゲルフィヨルド）

レン湖の水質は改善されてきた。

メーラレン湖は霞ヶ浦と比べると最大水深は59mと大変深く、飲料水は、水が動いているところで取水するので、夏と冬では取水の深さが違い、冬は5～10mのところから取水するそうだ。濾過の方法も急速濾過ではなく、ゆっくりと行うということで、きっとおいしい水だろうと想像していたとこ

ろ、懇談後、飲ませてもらった水は、本当においしい水だった。ストックホルム市の約半分は森林地帯ということなので、それもおいしい水を涵養しているのだろう。

「いのちの水」というように水への思いを深めた今回の世界湖沼会議参加だった。霞ヶ浦を次の世代に財産として残せるようにこれからも活動を続けたいと思う。

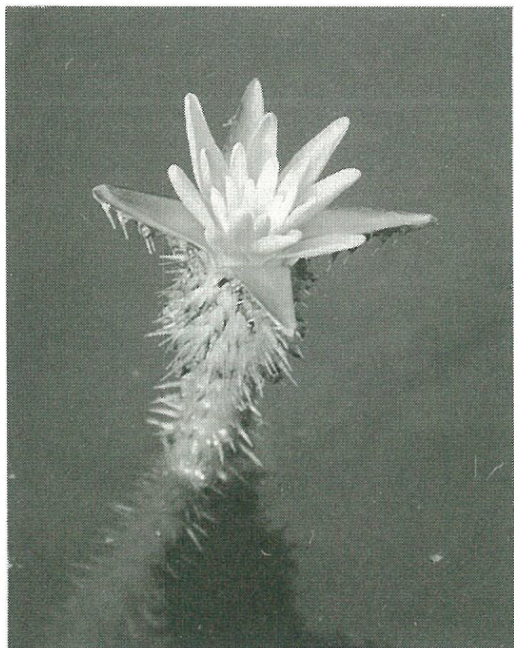


ストックホルム市水道局での懇談

霞ヶ浦 トビックス

オニバス開花中

石岡市東田中の山王川下流そばの休耕田で、今年植えられたオニバスがよく成長して花を咲かせています。高浜入りでは約30年前オニバスの大群落があったのですが、その後アオコに覆われたり、透明度が低下したりして、消滅しました。霞ヶ浦では貴重な植物の一つです。地元の川口明さんは、このほど、オニバスを実生から育てて約50aの休耕田に植え付け、毎日見守っていましたが、8月に入って次々に開花し始めました。刺が生えたつぼみが、やはり刺のある大きな葉を突き破って水面に顔を出し、濃い紫色の花を咲かせています。オニバスの植え付けには、環境グループ石岡、アサザ基金、筑波大学の鷺谷研究室が協力しました。珍しいオニバスの花は、9月上旬まで見られます。



オニバスの花

ワカサギ漁解禁

ワカサギ・シラウオのトロール漁が例年どおり、7月21日に解禁になり、霞ヶ浦で250隻、北浦で90隻が出漁しました。午前5時から約1時間半の操業で、霞ヶ浦で約2.1t、北浦で約5tの水揚げがあり、初日としては昨年より少なめでした。(茨城県霞ヶ浦北浦水産事務所調べ)。網には、ワカサギ・シラウオに混じって、ブルーギル・アユ・ペヘレイも多く入り、船によっては、こうした雑魚の方が多かったということです。ワカサギ・シラウオのトロール漁は12月10日まで続きます。

ホテイアオイ間引き

土浦市では霞ヶ浦の水質浄化対策として、去る6月9日ホテイアオイを、市内流入河川の新川、備前川に投入しましたが、8月9日第1回の間引き作業を新川で行いました。

ホテイアオイは、投入した1800株が、約25万4800株に、重さにして約60kgが約3万2500kgに増えました。これは、約52kgの窒素と約6kgのリンを吸収した計算になります。今回の間引きはこのうちの半数の約12万7400株、重量で約1万6755kgを回収、窒素約26kg、リン3kg除去したことになりました。

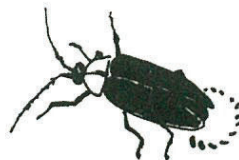
間引きしたホテイアオイは同市西根町の畑に肥料として還元しています。

ビオトープ研究会

ホタルとトンボに乾杯

奥井登美子

8月8日、乙戸町、仏照寺の裏にある休耕田に20人が集まりました。周囲はぎっしりと家が建っているのに、ここだけ、とり残されたように雑木林とたんぼがあります。面積は600坪、土浦環境保全の会の人たちが夢とロマンをかけて確保したたんぼです。同会の人たちは、2年前、乙戸沼のセイタカアワダチソウの根っこ掘りを一緒にやった人たちで、掘りながらいろいろな話をした中で、ホタルやトンボの話もしました。あれから2年。まさかと思ったのですが、本当に夢の実現のために休耕田を借り、地下水を流す水路まで作ってしまったのです。これからどうすればゲンジボタルとオニヤンマが生息できるようになるか。公民館に移動してホタルの生態のビデオを見ながら、カワニナが育つ砂利のある水路。冬の水温の確保。産卵をする木。幼虫が羽化するための傾斜地。などが必要という話を講師の鈴木幹男先生から聞きました。具体的に現場を観察しての講義はとてもわかりやすかったです。ホタルとトンボに乾杯しました。



セキスイは、暮らしの視点から環境にやさしい製品を、環境を損なわないシステムで生産し続けます。

一緒に暮らそう、セキスイと。

SEKISUI

積水化学工業株式会社

〒530-8565 大阪市北区西天満2-4-4 (堂島関電ビル)

ホームページアドレス <http://www.sekisui.co.jp/>

© 積水化学は、経団連自然保護基金を通じて、アジアのさまざまな自然保護活動を支援しています。

K-NETダイジェスト

1999年6月

本欄では霞ヶ浦に関する新聞記事の見出しを中心に、ダイジェストを収録しています。

(収集紙 A:朝日、Y:読売、M:毎日、J:常陽)

- 1日 土浦市、農家のビニールハウス暖房用重油、天の川に流出、通報、行政間連携遅れ対応後手(M)県西と県南の広域水道料金値上げ案、県会に提出へ、平均県西103円、県南139円アップ(Y、M)
- 2日 赤字続きの水道事業、改善策検討で県企業局、経営懇談会を設置、経営健全化へ外部意見(J)

3日 霞ヶ浦導水の一部変形問題、建設省試算補修費10億円、県負担35%、料金に影響?(Y)

6日 竜ヶ崎市久保台小学校と竜ヶ崎中央ロータリークラブが協力、溝を掘り池を整備し、自然繁殖の環境を作り、ホタル再生へ祈り込め、幼虫200匹を放流(M)

7日 村民に好評の「広報みほ」連載の「ふるさとの昔物語」" などの著者" 美浦村企画係長増尾尚子さん、このほど単行本として刊行(A)

8日 土浦市、県企業局へ水道料金値上げ延期要望(J、M)

9日 操業停止した新利根の城取清掃工場、跡地処理へ作業始まる、建物の解体を先行、設計など業者に委託発注、住民は「調査が先」(J)

10日 土浦市、新川・備前川2河川にホ

テアオイ3000株投入、霞ヶ浦の浄化対策(M、Y、J)日立市「環境家計簿」全戸配布へ、地球に優しい生活めざす、シンポジウムで実践報告も(J)

12日 県99年版環境白書発行、環境ホルモンの初掲載(J)

15日 県議会、県南・県西広域水道事業料金値上げ案可決(M、A、18日Y、J)国立環境研総合研究官稲森悠平さんソウル市の水道水源パルダン湖などの水質管理、改善システムの開発が評価され、外国人初の韓国環境保全有功者国務総理表彰を受賞(J)

16日 土浦で環境浄化目指し、親子環境フェスティバル開催「こどもエコクラブ」と「霞ヶ浦ジュニアレンジャー」2団体参加(M)ダイオキシソ類今年度調査39カ所、河川・湖沼の水質・底質も(A、M)霞ヶ浦・北浦のワカサギ・シラウオ漁今シーズン「好漁」か、県内水面水産試験場初期餌料密度から「過去4年のうちでも良好」と予想(J)

19日 霞ヶ浦にうなぎの稚魚放流、霞ヶ浦漁連、漁獲量の向上図る(J、29日M)

21日 「茨城トンボ服装」アサザ基金支援へ、プロジェクト創設市民団体とスクラム、商品に積立金表示のタグをつけ消費者と同社が同額を負担(M)自然環境の保護訴え「99霞ヶ浦バスフィッシングトーナメント」土浦開催、土浦青年会議所(J)

23日 県内18海水浴場調査「水質すべて良好」県環境対策課発表(J、Y、A)

24日 県、緒川ダム中央要望事項に含めず、再評価委は事業「休止」判断(J、Y)

29日 関東地建常陸事務所、水質事故ホットラインを開設(M)モニタリング委員会霞ヶ浦の多自然型護岸の調査報告、豊かな生態系に戻る(J)

30日 霞ヶ浦の水質保全へ、土浦市東部地区農排水処理施設が完成(J)玉造で「霞ヶ浦鮎まつり」子供たち銀鱗手づかみ歓声、霞ヶ浦ふれあいランド(J)

8月の観測結果(8月4日湖岸から観測)

プランクトンは糸状藍藻類のオシロトリアとフォルミディウムが優占、アナバノプシスやラフィディオプシスもみられるが、アオコは数100群体と少ない。透明度は低めで、特に土浦入りで透明度が低い。土浦入りと湖心部では水色、水質とも差が大きい。

項目	田村地先	沖宿地先	崎浜地先	志戸崎地先	麻生地先
水温	31.4	31.3	31.7	32.2	30.2
pH	9.08	8.94	9.53	8.88	8.7
電気伝導度	276	287	288	302	345
透明度cm	40	35	33	52	48
溶解酸素濃度	10.1	10.0	9.7	8.5	7.4
COD	8.1	11.2	10.0	8.6	4.8
NH4-N					
NO2-N					
NO3-N					
PO4-P					
塩素イオン	37.4	37.6	39.1	39.7	50.6
植物プランクトン (cells or colonies/ml)					
Melosira	300	600	240	480	420
Cyclotella	540	360	600	240	360
Synedra	900	120	360	120	480
その他の珪藻	180	360	480	120	240
珪藻類計	1,920	1,440	1,680	960	1,500
Phormidium	17,880	21,120	16,440	5,160	9,840
Oscillatoria	5,820	3,240	3,840	1,080	4,440
その他の藍藻	720	600	540	240	780
藍藻類計	24,420	24,960	20,820	6,480	15,060
緑藻類	360	240	300	240	480
原生動物	4,500	3,960	12,600	540	1,980

単位:mg/L

プランクトン群体数又は個体数/ml

天川クリニック

・耳鼻咽喉科 医師 辻 久茂
・小児科・内科・婦人科 医師 辻 葉子

土浦市天川1-28-12
TEL:0298-22-0844 FAX:0298-23-3276
(電話で確認の上御来院下さい)

◎休診日 水曜、祭日、第2第4日曜

◎診療時間 午前8:30~12:00
午後3:00~5:30

土曜は午後5時まで、日曜は午前中のみ

※但し 小内婦の午後開始は4:00です



セントラル科学株式会社

URL <http://www.hypermedia.or.jp/CKC>

茨城営業所/土浦市港町1-4-19ワコー第2ビル ☎0298-24-3398 FAX0298-24-6236

本社/東京都文京区本郷3-23-14ショウエイビル ☎03-3812-9186 FAX03-3814-7538

他支店/営業所 大坂・福岡・千葉・名古屋・横浜・仙台

お知らせ

旧桜川・植物観察会

大正・昭和初期の面影を残す旧桜川(土浦市蓮河原町)沿いに歩いて、水辺の植物を中心に自然観察をします。7月の観察会が雨で中止になりましたので、ぜひ多くの皆様のご参加をおまちしています。

日時：9月26日(日) 9:00~12:00
集合：土浦駅東口階段下南側(電話ボックス前)

コース：旧桜川沿いに「水の交流館」まで歩きます(約2km)

講師：後藤直和さん(土浦植物友の会)
主催：(社)霞ヶ浦市民協会

TEL 0298-21-0552

穴塚大池で野鳥を見よう

日時：9月6日(日) 9:30~12:00
集合：土浦学園線「北乃一丁」駐車場前
講師：福田篤徳さん(日本野鳥の会)
主催：穴塚の自然と歴史の会

TEL 0298-57-3054

事務局日誌

1999年7月

- 1日 泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル 打合せ/エリート情報取材
- 3日 タナゴ調査
- 4日 新川クリーンアップ、水質浄化プロジェクト水耕花壇植替
- 5日 理事会/山王川水質調査協力
- 6日 平成11年度霞ヶ浦水質浄化標語審査会(県庁)
- 7日 泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル 打合せ(施設)
- 8日 霞ヶ浦水辺ふれあい事業会議
- 10日 霞ヶ浦情報マップ企画委員会
- 12日 泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル 打合せ(霞ヶ浦工事事務所)
- 14日 泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル 実行委員会(第5回)
- 15日 霞ヶ浦湖上実践セミナー(40市町

アサザのお花見バスツアー

日時：9月12・26日(日) 10:00 集合
集合：土浦駅東口(コイン駐車場付近)

参加希望者は事前に連絡を

主催：アサザ基金(0297-66-5783石井)

第5回 日本環境毒性学会研究発表

化学物質汚染や環境ホルモン関係の最近の研究結果が発表されます。シンポジウム「有機スズ汚染は終わったか」も開催されます。

日時：9月11日(土) 12日(日) 8:30~
会場：東京水産大学(品川駅東口より徒歩約10分)

参加費：約3,000円



村) 講師

- 18日 泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル テント設営
- 19日 泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル 会場清掃
- 20日 第4回泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル開催
- 21日 常陽新聞主催「霞ヶ浦の日」座談会
- 23日~28日 '99 夏の霞ヶ浦何でも相談室(霞ヶ浦インフォメーションセンター)
- 24日 つくば国際水環境フォーラム実行委員会
- 27日 会報発送
- 29日 土浦市環境審議会
- 30日 土浦キララ祭り、湖上イベント委員会
- 31日 いばらき湖沼環境フェスティバル 出席・出展/霞ヶ浦情報マップ企画委員会

霞ヶ浦インフォメーション
「水の交流館」だより

1999年8月

5日 霞ヶ浦実践セミナー(霞ヶ浦町) 町内小学6年生、6校30名。

実習館でビデオ「きれいになあれ霞ヶ浦」を見た後、霞ヶ浦について研修、館内見学。船上で水質測定等湖上視察をし、下船してから討論会。

8日 北浦子供会40名。当館でオリエンテーション後、船上で水質測定、プランクトン観察。土浦バイオパークで、クレソン採取、生物観察。水の交流館にもどり、霞ヶ浦について研修、館内見学。

22日 アシからの紙すき教室(一般公募) 参加者約35名親子参加が多かった。霞ヶ浦の概要の説明の後、紙すきと、すきあげた紙をつかって創作(絵・造形)。キララテレビ取材。

23日 新宿区消費者団体連絡会。霞ヶ浦研修。約43名。

25~30日 「夏の霞ヶ浦何でも相談室」開設。25日NHK取材、放映。

26日 「世田谷区立教育センター」霞ヶ浦研修。中学教員約30名。

27日 麻生町クリーン委員会。霞ヶ浦研修。約50名。

会員の皆様へ

皆様のおたよりをお待ちしています。霞ヶ浦に関すること、当協会・本紙へのご意見、ご提言、感想など何でも結構です。どうぞお気軽にお寄せください。

また、会員の募集も行っております。入会ご案内のためのリーフレットをご入用の方は、お知らせいただければお送りいたします。

「霞ヶ浦 NEWS」

会員募集中! 個人会員: 1口3,000円 法人会員・団体会員: 各1口10,000円



発行日: 1999年8月31日

発行所: (社)霞ヶ浦市民協会 〒300-0033 茨城県土浦市川口2-13-6

発行人: 堀越 昭

編集人: 高木純子

印刷所: (株)柳沢印刷所

編集スタッフ: 沼沢 篤・今泉文彦・鹿志村啓子